

一 般 (個 人) 質 問 通 告 一 覧 表

令和 5 年 第 7 回 笠 岡 市 議 会 定 例 会

9 月 13 日・14 日 (2 日 間)

| 通 告 者 | 質 問 事 項 | 質 問 の 要 旨 | 答 弁 者 |
|---------|--|---|--|
| 1 栗尾 典子 | <p>1 これからの障害者福祉について</p> <p>2 笠岡市の子供を取り巻く環境について</p> | <p>笠岡市では第 4 次笠岡市障がい者福祉計画 (2018 年～2023 年) が本年度で終わり, 来年度から第 5 次笠岡市障がい者福祉計画 (2024 年～2029 年) が始まる。</p> <p>2005 年の障害者自立支援法から 2013 年には障害者総合支援法となり, 単なる「自立」の支援というだけでなく, その人らしい社会生活を営むという目的が明確にされた。</p> <p>その目的を踏まえた第 4 次笠岡市障がい者福祉計画が終わろうとしている。</p> <p>(1) 第 4 次笠岡市障がい者福祉計画ではどのような問題や課題が出たのか尋ねる。</p> <p>(2) その問題や課題を改善するために第 5 次笠岡市障がい者福祉計画ではどのようなことが盛り込まれるのか尋ねる。</p> <p>(3) 特に障害者の就労支援について, 笠岡市の問題点をどのように考えているのか尋ねる。</p> <p>(4) 今後の笠岡市における障害者福祉の基本的な考え方を尋ねる。</p> <p>現在笠岡市では, 計画に基づいて, 約 40 億円かかると思われる金浦中学校ブロック施設一体型小中一貫教育校の建設が進められようとしている。</p> <p>大型事業の中でも駅南口の整備とともに優先順位が最も高いものとみられる。</p> <p>施設一体型の学校が完成すれば, 教育環境が整い, 中 1 ギャップをはじめとする教育問題の解決につながるとうたわれている。</p> | <p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> |

| | | | |
|---------|---------------------|--|--|
| | | <p>一方、本市の昨年度の出生数は177人。現在市内の中学生は約1,001人であるが、10年後は市内の中学生は全員で約600～700人と予想される。こうした少子化の中で未来を背負う子供たちの現在の環境と今後の施策について尋ねる。</p> <p>(1) 少子化対策について笠岡市の具体的な施策は何か。</p> <p>(2) 就学前の子供たちの現在の課題と対策は何か。</p> <p>(3) 児童生徒の現在の課題と対策は何か。</p> <p>(4) 施設一体型小中一貫教育校の建設は、金浦中学校ブロックに続き、新吉中学校ブロック、神島外中学校ブロックも順次計画をされているが、進捗を尋ねる。</p> | <p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> |
| 2 大本 邦光 | 1 部活動の地域移行の円滑実施について | <p>公立小中学校の休日の部活動を地域のスポーツクラブなどに委ねる地域移行が、2023年度から段階的に始まります。政府は、2025年度までの3年間を「改革集中期間」と位置づけて移行を進め、将来は平日の指導も地域に委ねることを目指すとしています。</p> <p>部活動の在り方を大きく転換するものであり、学校や移行先だけでなく、保護者や行政などの関係者が連携しながら、丁寧に進める必要があると思われます。</p> <p>地域移行が求められる背景の一つに、教職員の長時間労働が深刻化しており、働き方改革が求められております。このほか、少子化に伴う部員の減少により、学校ごとの部活動運営が困難になりつつあるという現状も、地域移行の必要性を高める要因であります。</p> <p>部活動には、スポーツや文化活動を通じて子供たちの健やかな成長を促すという役割がありますが、地域移行には解決すべき課題も多いのではないのでしょうか。</p> | |

| | | | |
|---------------|----------------------------------|--|---|
| | <p>2 プレコンセプション(妊娠前)ケアについて</p> | <p>(1) 部活動が学校を離れ、地域で行うスポーツクラブの形を取るようになっていくことについて、笠岡市教育委員会としてどのように捉えているのか、見解をお尋ねします。</p> <p>(2) 笠岡市の現状について、公立小中学校における全部活動の種類と登録部員数の把握についてお尋ねします。</p> <p>若い世代の男女やカップルに対し、妊娠・出産に関する知識などを伝え、健康意識を高めてもらう「プレコンセプションケア」の取組を政府や自治体が始めています。</p> <p>妊娠する前から若い世代の健康管理を促し、望む人には将来の妊娠へ備える情報を伝え、人生設計に役立ててもらうのが目的となっています。</p> <p>WHOは「妊娠前の女性とカップルに医学的・行動学的・社会的な保健介入を行うこと」として定義しています。</p> <p>日本では、「第5次男女共同参画基本計画」の第7分野「学童・思春期」の部分に「プレコンセプションケア」が記載されています。</p> <p>(1) プレコンセプションケアについての認識をお尋ねします。</p> <p>(2) 若い世代の男女に対して、健康な生活習慣の維持、妊娠・出産に関する正しい知識や情報の普及を行うなど、プレコンセプションケアに係る本市の取組についてお尋ねします。</p> | <p>教育長</p> <p>関係部長</p> <p>関係部長</p> <p>〃</p> |
| <p>3 山本 聡</p> | <p>1 笠岡湾干拓地内の施設(土地)の有効利用について</p> | <p>笠岡湾干拓地は笠岡市の陸地部と笠岡諸島とをつなぐ結節点ともいえ、農畜産を中心に、道の駅など観光面でも笠岡市の顔として捉えることができる。</p> <p>完工後30年余りが経過し、時代に即した役目が求められている。</p> | |

| | | | |
|---|--------------|--|---|
| | | <p>近郊農業の酪農、畜産農家が集積する産地や、再生可能エネルギー農場として大規模菜園を展開する農業法人など、広大な土地を利用した大規模事業も進められてきた。</p> <p>一方で、経済性の観点から利用価値が見込まれない笠岡ふれあい空港や、周辺に放置されている公園など、十分に機能しているとはいえない施設も存在している。また、市内各所に点在する耕作放棄地について実態の把握とともにその活用が急がれるところである。</p> <p>道の駅バイファームのさらなる活性化と、併せて活用が十分でない施設、土地の活性化策について、以下、尋ねる。</p> <p>(1) 水と緑のふれあい広場の活用について</p> <p>(2) 笠岡ふれあい空港の取扱いについて</p> <p>(3) バイオガス発電施設及び大規模農業施設、酪農・畜産農家と本市の連携について</p> <p>災害対策を自分事化することが、結果的に有効な手段であると捉えたい。自らの努力で身を守る自助，連携して助け合う共助，それらの実行力を持たせるべく防災対策として教育現場に以下の「防災教育」を導入してはどうか尋ねる。</p> <p>(1) 中学生(高校生)の被災地での学習体験</p> <p>(2) 中学生の防災訓練などへの参加</p> <p>(3) 中学生の防災士の資格取得に向けて</p> <p>堺屋太一氏の著書「満足化社会の方程式」の中で、「時代を背景とした全国的な課題である少子化は、満足化社会が生み出した負の遺産ともいえる。成熟した社会の一面を伝える現象であるが、その対策としての処方箋は示されていない」と述べられている。</p> <p>笠岡市でも人口減少は加速度的に進み、その要因でもある少子化に歯止めはかかっていない。</p> | <p>市 長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>市 長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> |
| 2 | 地域防災の取組について | | |
| 3 | 定住促進ビジョンについて | | |

| | | | |
|---------|--------------------|--|--|
| | | <p>定住促進ビジョンでは、定住、住宅対策のため笠岡市の魅力や強みを生かしたシティプロモーションに積極的に取り組み、若者を中心とした楽しく住みやすいまちづくり、魅力的な地域づくりを目指している。</p> <p>課題とその対策について、以下、尋ねる。</p> <p>(1) 定住促進ビジョンの示す、「時代を先取りした新たな暮らし」とは何か。</p> <p>(2) 社会動態は改善していないように思うがどうか。</p> <p>(3) 若者を中心とした地元定着、移住促進の具体的な処方はどのようなものか。</p> <p>(4) 笠岡市の「魅力」が若者へ伝わっていると考えているか。</p> | <p>市長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> |
| 4 真鍋 陽子 | 1 インクルーシブ社会の実現について | <p>(1) 笠岡市におけるヘルプマークの配布状況、活用状況について尋ねる。</p> <p>(2) 令和2年9月定例会の個人質問において、「ヘルプマークについて、12月の障害者週間に合わせて広報かさおかで継続的な啓発を行う。」、「市内小・中学校、高等学校へヘルプマーク啓発ポスターの掲載をお願いしていく。」などの回答があった。</p> <p>その後の取組について尋ねる。</p> <p>(3) 笠岡市役所本庁舎前、おもいやり駐車場スペースにヘルプマークも表示してほしいと提案をしていた。</p> <p>表示に加えられなかった理由を尋ねる。</p> <p>(4) 墨田区において「墨田区手話言語及び障害者の意思疎通に関する条例」関連施策として行われている「ヘルプシール」は、聴覚障害のある方、内部障害のある方など、外見からわからない特性のある方が活用されており、倉敷市においても導入されている。</p> <p>様々な困難さとともに生きる方々が地域</p> | <p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> |

| | | | |
|--|--|---|----------------------|
| | | <p>で暮らしていくためのツールとして、笠岡市においても有効であるが、導入は可能か尋ねる。</p> <p>(5) 2019年6月28日、視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律「読書バリアフリー法」が施行された。</p> <p>この法律は「障害の有無にかかわらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現」を目指すものであり、対象者は「視覚障害、発達障害、肢体不自由その他の障害により、雑誌、新聞等を含む書籍について、視覚による表現の認識が困難な者」とある。</p> <p>笠岡市においては読書バリアフリー備品整備事業として視覚障害者用読書器1台、デジタイズ図書再生機器館内用1台、貸出用10台を購入予定だが、今後具体的に、どのように活用していくのか尋ねる。</p> <p>(6) 内閣府がまとめた「平成25年版障害者白書」の中の「児童生徒の困難の状況」では「知的発達に遅れはないものの学習面で著しい困難を示す児童生徒の割合」は4.5%という調査結果があり、日本におけるディスレクシア(読み書き障害)の発現率の割合として一番近いものと考えられているが、元筑波大学教授でNPO法人LD・ディスレクシアセンター理事長である宇野彰氏の調査によれば、小学生では8%存在すると言われている。</p> <p>笠岡市においては多層指導モデルMIMの活用により、早期介入、早期支援体制の構築が可能だが、教員の負担をより軽減し、かつ子供たちの困り感を少しでも早く解決するため、市内の小学校1年生全員に対し、</p> | <p>関係部長</p> <p>〃</p> |
|--|--|---|----------------------|

| | | | |
|--|----------------------------------|--|-------------------------------|
| | | <p>多層指導モデルM I Mアプリを一人一台タブレットに導入することは可能か尋ねる。</p> <p>(7) 全ての子供たちが読書に親しむことができるように、学校図書室内にバリアフリーコーナーを作ることはできるか尋ねる。</p> <p>(8) 学校図書室が国会図書館の承認館となることで、読みに困難さを伴う児童生徒が学校図書室を通してマルチメディアデジータ図書やわいわい文庫を借りることができる環境整備ができる。</p> <p>現在市内に国会図書館の承認館となっている学校図書室はあるのか尋ねる。</p> <p>また、今後、学校図書室を国会図書館の承認館とする取組ができるか尋ねる。</p> <p>(9) 認定NPO法人エッジ、日本LD学会、全国LD親の会、大阪LDセンター、発達性ディスレクシア研究会、主要5団体が共同し、10月をディスレクシア月間として様々な企画が予定されている。</p> <p>ディスレクシアの啓発と読書バリアフリー法の実施を広げるために、笠岡市立図書館においても、10月に関連書籍コーナーの設置や、図書館職員に対する研修や勉強会、一般向けの講座を開く等できるか尋ねる。</p> | <p>関係部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> |
| | <p>2 近畿笠岡思民の集い、東京笠岡思民の集いについて</p> | <p>(1) 近畿笠岡思民の集い、東京笠岡思民の集いに若い世代が集いやすくするために、対象年齢を決めるなどして参加費用の負担を軽減することはできるか尋ねる。</p> | <p>関係部長</p> |
| | <p>3 学校教育について</p> | <p>(2) 成人式に集う方々に、チラシなどで近畿笠岡思民の集い、東京笠岡思民の集いの日程案内をすることはできるか尋ねる。</p> <p>(1) 不登校の子供たちの社会的自立を支援するために、草津市、彦根市、米原市、甲賀市などでフリースクール等民間施設を利用</p> | <p>〃</p> <p>教育長</p> |

| | | | |
|---------|----------------------|---|--------------------------------|
| | | <p>する子供の保護者に対する補助金の交付が広がっている。</p> <p>東京都では「フリースクール等に通う不登校児童・生徒及び保護者の支援ニーズや進路，フリースクール等での活動内容や分類，調査協力金による効果などを把握し，東京都教育委員会の今後の施策に生かすために実施」として補助金を交付している。</p> <p>笠岡市内における不登校の子供たちの社会的自立を支援するため，本市においてもフリースクール等民間施設を利用する子供の保護者に対して補助を行うことはできるか尋ねる。</p> <p>(2) 令和3年度より，年に1度はオーガニック食材を利用した給食を実施している。</p> <p>令和5年度における計画を尋ねる。</p> <p>(3) 令和5年6月，全国オーガニック給食協議会が設立された。笠岡市におけるこれまでの取組をさらに進めるため，協議会に入会できるか尋ねる。</p> | <p>関係部長</p> <p>教育長</p> |
| 5 森岡 聡子 | 1 子供を中心においた支援の実現について | <p>令和5年4月1日「こども家庭庁」が発足した。</p> <p>「こどもまんなか社会の実現」に向けて制度の拡充や子供の目線に立った支援が広がることが期待されている。</p> <p>(1) こどもまんなか社会に係る本市の具体的なビジョンについて尋ねる。</p> <p>(2) まちづくりに子供が参加し，声を聞き反映させる施策の取組について尋ねる。</p> <p>(3) 児童福祉法の改正で，子供の声を聞く仕組の構築が明文化されることにより，今後子供たちにどのような影響が考えられるのか。特に社会的養護が必要な子供たちについて尋ねる。</p> | <p>市長</p> <p>関係部長</p> <p>〃</p> |

| | | | |
|--|----------------------|---|----------------------|
| | <p>2 産後ケア事業について</p> | <p>産後ケアは、育児不安や心身に不調がある場合だけでなく、支援を必要とする人は誰でも利用でき、利用者全員が産後ケア利用料金補助の対象となる。また、母親の孤立を防ぐことにもなる。</p> <p>(1) 小規模自治体では助産所や産科のある医療機関が不足しているとの報告があるが、本市の現状を尋ねる。</p> <p>(2) 使用済紙おむつ廃棄処分費用補助等の取組について尋ねる。</p> | <p>関係部長</p> <p>〃</p> |
| | <p>3 2025年問題について</p> | <p>国民の約3割が高齢者となり、団塊世代が75歳以上の後期高齢者になることで起こる社会問題が懸念される。労働力不足、医療人材不足、社会保障費の増大等への対応策について、本市の考えを尋ねる。</p> | <p>関係部長</p> |